

公開研究会 「大地震から巨大都市（首都）をどう守るのか —東日本大震災の経験を踏まえた建物・まちの対策—」

主催：日本建築学会 巨大災害からの回復力が強いまちづくり特別調査委員会

日程：2013年12月20日（金）13：30～17：00

会場：建築会館会議室（東京都港区芝5-26-20）

2011年東日本大震災では東京の震度は5であったにもかかわらず、帰宅困難者が溢れ、幹線道路は渋滞し、首都機能は麻痺状態となった。今後想定される南海トラフ沿いの海溝型巨大地震や首都直下地震などの大規模地震災害に対して、首都に代表される巨大都市をどう守り、早期復旧を可能とするのか、関連する様々な分野を横断する取り組みが求められている。本公開研究会では、巨大都市における特に中心市街地を念頭に置き、東日本大震災など過去の震災から学んだ教訓を踏まえて、震災後の機能継続と早期復旧を可能とするため、建物単体の構造・非構造・設備の耐震性向上などハード対策から、エリアを単位とする地域連携による業務継続マネジメントなどソフト対策などの様々な取り組みを紹介し、今後、建築学会として取り組むべき課題を明らかにしていきたい。

プログラム（発表タイトルには仮題を含む）

- 司会 飛田 潤 （名古屋大学）
- 副司会 三好勝則 （工学院大学）
- 記録 稲垣景子 （横浜国立大学）

1. 開会挨拶・主旨説明 久田嘉章 （工学院大学）

2. 主題解説

- ①都市の建築構造はどうあるべきか 田村和夫（千葉工業大学）
- ②建物の振動モニタリングの現状と課題 池田芳樹（鹿島建設）
- ③これからの建築・都市機能維持について 増田幸宏（豊橋技術科学大学）
- ④地域と連携したマンション再生の可能性 齊藤広子（明海大学）
- ⑤新宿駅周辺地域におけるエリア防災の取組

（その1：建物即時使用性の判定と多数傷病者への対応）

鱒沢 曜（鱒沢工学研究所）、諏訪 仁（大林組）

⑥新宿駅周辺地域におけるエリア防災の取組

（その2：都市再生安全確保計画と今後の課題） 村上正浩（工学院大学）

3. 質疑・討論 主題解説者および会場参加者

4. まとめ

※都合により講演者が変更となる場合があります。

参加費：会員1,500円、会員外2,500円、学生1,000円

（資料代含む、当日会場でお支払いください）

定員：60名（申し込み先着順）

申込方法：Web 申し込み <https://www.aij.or.jp/index/?se=sho&id=627> よりお申し込み

ください。

申込問合せ：日本建築学会事務局 教育・普及事業グループ 酒井

TEL03-3456-2051 E-mail：sakai@aij.or.jp